

行革分科会合同会議(メモ)

出席者

行政改革に向けた14分科会のメンバー及び本部員対象。(121人出席)

会議

1、開会：司会

2、市長講話「下呂市の行政改革について」

- ・先の災害への対応、日々の業務に対する謝意。
- ・合併に伴い融和の精神を基調に、公平・平等に心がけていきたい。
- ・町づくりのグランドデザインとして総合計画を策定中。
座談会を開催し市民との対話を進めている。説明すれば分かってもらえることが多い。
- ・地方分権：時代の流れ 地域間競争の時代に突入し「自主・自立」が求められている。
- ・自主自立：国・県、市民との協働の中で、地域の特性を活かして、自分たちの力で、自分たちの望むまちづくりを進める。
- ・行革をキーワードにまちづくりの基礎を作っていく。
- ・入るを図り、出を制す：行政改革・行政運営の基本
- ・入るを図る：活性化・定住化の基本に観光立市を据えている。
- ・観光立市：経済的な自立に向けて、地域資源(温泉、自然、産業、文化)を最大限に生かす。
地産地消費、資源・産業のネットワーク
- ・大温泉地が苦戦している現状でも、無限の未来が必ずある。
- ・下呂～新宿間直行バス・愛知万博・アジア観光ピックアップの予感・・・流れを的確に掴む。
- ・行政改革に対する市民の感心は高い。合併した今がチャンス。
- ・3年後を目処に進め、早ければ来年度予算から反映させていきたい。
- ・職員は自治体の宝であると言われている。全職員の英知を結集させる。金がなければ頭を使え。
- ・行革の断行に向けては「職員の意識改革」と「市長の決断」が大きな役割を担う。
- ・自分も不退転の決意で挑む。職員も頑張ってもらいたい。
- ・職員に対する厳しい目も自覚してほしい。
- ・地域活動に積極的に参加する職員。職員のやる気に対して支援する方向(インセンティブ)
- ・市民との信頼関係を大切にしてほしい。(説明・議論・コミュニケーション)
- ・民間：競争の原理により向上する。
- ・市に対する誇り。誇れる古里を築いてほしい。

3、分科会のあり方について(行革推進室長)

- ・別添資料により、各分科会で検討してほしい内容。
- ・先進地事例の紹介

4、第1回分科会

- ・分科会長、副会長、書記の選任

5、閉会(総務部長)

会議終了後、分科会長打合せ。
分科会長会議を11/8に開催。



行革に対する思いを
熱く語る市長